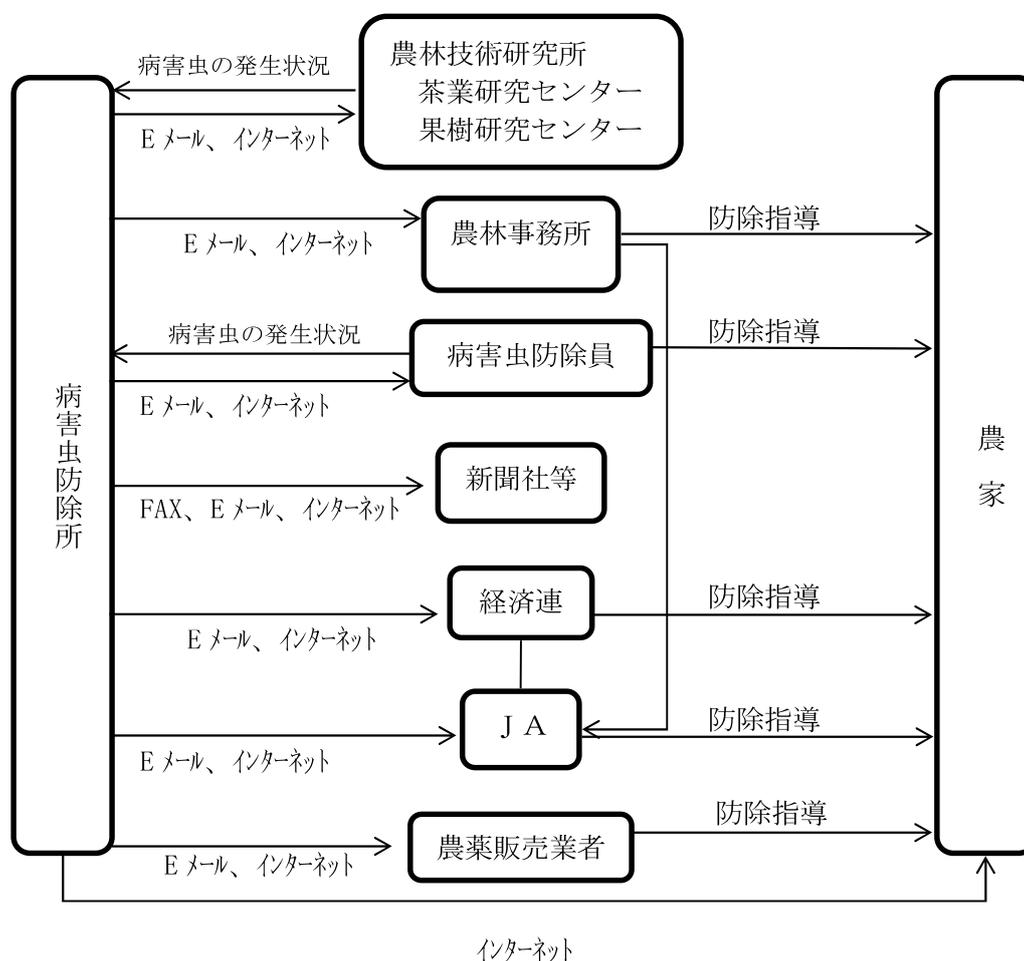


## II 病虫害発生予察情報の発表と提供先

### 1 病虫害発生予察情報の提供体制と指導体制



F A X : ファックスでの一斉送信

インターネット : 防除所のホームページから予察情報や防除情報を閲覧

Eメール : インターネットのメールを利用し送信

\*・F A X、Eメールは予察情報のみ提供

・インターネットは予察情報や各種トラップのデータ、病虫害発生予測等を提供。

・国へは指定様式で報告、他都道府県へはJPP-NETの掲示板への掲載により情報提供。

## 2 インターネットによる情報提供

### (1) 目的

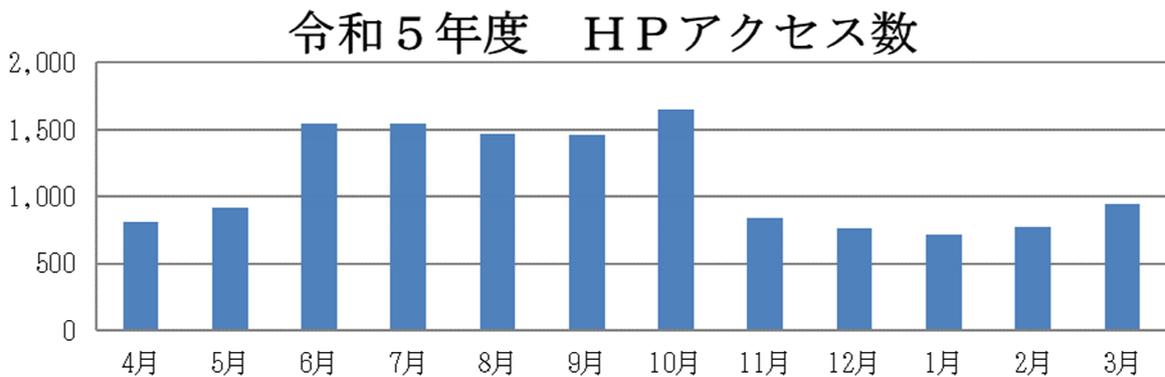
効率的で的確な病虫害防除対策を推進する一環として、病虫害発生予察情報の迅速な周知徹底を図るとともに、広く県民に利用してもらうため、インターネットによる予察情報の公開を行った。

### (2) 提供内容

インターネットによる提供

- ① 提供期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日
- ② 提供方法 農林技術研究所が委託運用しているサーバ上にホームページを開設し、インターネットにより閲覧できるようにした。
- ③ 情報内容及び内容の更新  
病虫害発生予察情報、気象の季節予報など 毎月1回更新  
注意報・特殊報、病虫害の発生状況グラフなど 随時更新

### (3) 提供実績



**病虫害防除所**

- ◆ トップページ
- ◆ 病虫害防除基準
- ◆ ウメ輪紋ウイルス (PPV)
- ◆ 病虫害発生予察
  - 予察情報
  - 注意報・警報
  - 特殊報
  - 技術情報
  - 病虫害発生状況グラフ
- ◆ 病虫害関連情報
  - 害虫誘殺グラフ
  - 防除時期等予測
- ◆ リンク
- ◆ アクセス
- ◆ 気象の季節予報 (気象庁へのリンク)
- ◆ パンフレット (静岡県病虫害防除所)

**静岡県病虫害防除所**  
Shizuoka Plant Protection Office

農薬の安全使用指針  
ここをクリック

・令和4年度農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準を運用しています。  
<https://www.s-boujyo.jp/>

・農薬の使用に当たっては、必ずラベルで確認してください。

・製本版の販売に関しては、静岡県植物防疫協会 (054-221-5678) へお問い合わせ下さい。

**農林技術研究所**  
Shizuoka Prefectural Research of Agriculture and Forestry

令和5年度ホームページ閲覧数 (令和6年3月末現在)

累計 13,458件

### 3 病害虫発生予察情報の内容

(1) 警報 : 発表しなかった。

(2) 注意報

号	発表年月日	対象病害虫名	対象作物名
1	令和5年 9月29日	果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)	かんきつ、落葉果樹 (かき、キウイフルーツ等)

(3) 特殊報

号	発表年月日	対象病害虫名	対象作物名
1	令和5年 6月23日	クロテンコナカイガラムシ	トマト、きゅうり、オクラ、ズッキーニ
2	令和5年 6月23日	ナスコナカイガラムシ	トマト
3	令和5年10月 5日	モモヒメヨコバイ	ハナモモ、モモ、ウメ等

(4) 一般発生予察情報

予報月	発表年月日	予報月	発表年月日
5月	令和5年 4月26日	11月	令和5年10月30日
6月	令和5年 5月30日	12月	令和5年11月29日
7月	令和5年 6月28日	1月	令和5年12月27日
8月	令和5年 7月26日	2月	令和6年 1月30日
9月	令和5年 8月30日	3月	令和6年 2月28日
10月	令和5年 9月27日	4月	令和6年 3月26日

(5) 技術情報

号	発表年月日	対象病害虫名	対象作物名
1	令和5年 4月12日	うどんこ病	小麦
2	令和5年 9月 7日	果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)	かんきつ、落葉果樹 (かき、なし、キウイフルーツ等)
3	令和6年 1月30日	立枯病	トマト
4	令和6年 2月28日	カンザワハダニ	茶
5	令和6年 2月28日	アザミウマ類 (ヒラズハナアザミウマ)	いちご

令和5年9月29日  
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）  
対象作物：かんきつ、落葉果樹（かき、キウイフルーツ等）

### 1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域： 県内全域
- (2) 発生が予想される時期： 9～10月
- (3) 発生程度： 多い
- (4) 防除時期： 9～10月

### 2 注意報発表の根拠

- (1) 県内4か所の予察灯における9月上中旬の合計誘殺数の平均は、チャバネアオカメムシが770頭/か所（平年360頭/か所、平年比2.1倍）（図1）、ツヤアオカメムシが549頭/か所（平年258頭/か所、平年比2.1倍）（図2）、クサギカメムシが39.3頭/か所（平年24.6頭/か所、平年比1.6倍）（データ省略）であり、いずれも平年より多かった。特に、西部地域の予察灯（磐田市2か所、浜松市1か所）において果樹カメムシ類の誘殺が多かった（図1、図2）。
- (2) 県内6か所のフェロモントラップにおける9月上中旬の合計誘殺数の平均は、チャバネアオカメムシが79.5頭/か所（平年61.7頭、平年比1.3倍）と平年よりやや多く、9月に入り県内全域で誘殺数が増加している（図3）。
- (3) 果樹カメムシ類の好適な餌であるヒノキ球果（種子）において、球果1個あたりの本虫吸汁痕数が25を超えると、本虫はヒノキから離脱し、餌を求めて果樹園に飛来するとされている。9月上中旬のヒノキにおける球果1個あたりの吸汁痕数は、平均13.4（平年15.0）と平年並であったが、吸汁痕数が既に25を超えている場所もあるため、本虫がヒノキから離脱している可能性もある。
- (4) 本年は、県内全域において本虫の数に対して餌となるヒノキ・スギ球果の着果量が少なかった（図4）ことから、本虫が餌を求めて果樹園へ飛来し、果実を加害する恐れがある（図5）。
- (5) 果樹園内の病害虫防除員からの報告によると、15名中7名が果樹カメムシ類の発生が「多い」または「やや多い」と回答した。これら多発の報告は、特に中部・西部地域で多く、一部の果樹園（特に中山間地）で本虫の飛来を確認したとの情報も複数寄せられている。

### 3 防除方法

- (1) 本虫の飛来に注意し、ほ場で発生を確認したら直ちに薬剤防除を行う。成虫の移動範囲は広いが、地域での一斉防除が効果的である。ヒノキ・スギ林の隣接地域（特に中山間地）や台風通過後の園地では、急激に発生が増加する可能性があるため注意する。
- (2) 薬剤防除については、「静岡県農業安全使用指針・農作物病害虫防除基準」(<https://www.s-boujyo.jp/>)を参照する。なお、薬剤の選択に際しては収穫前日数に注意する。
- (3) 今後の発生状況については、病害虫防除所ホームページ (<https://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujyo/boujyo.html>) で提供している「害虫誘殺グラフ（果樹カメムシ類）」を参考にする。
- (4) 本虫の発生は例年10月末で終息するが、最高気温が20℃を超える場合は11月でも発生することがあるため注意する。
- (5) 不明な点については病害虫防除所、農林技術研究所果樹研究センター、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

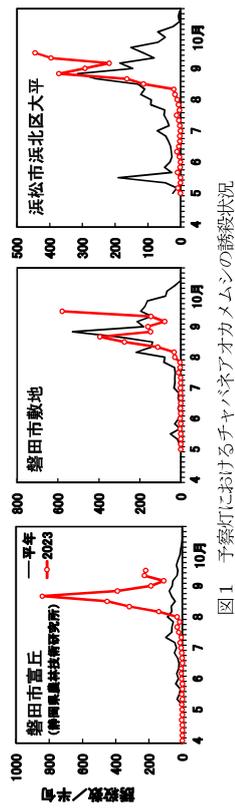


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

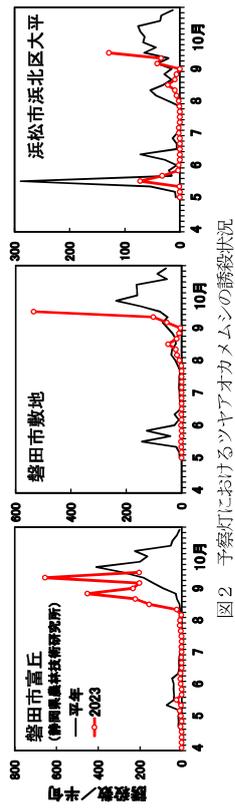


図2 予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺状況

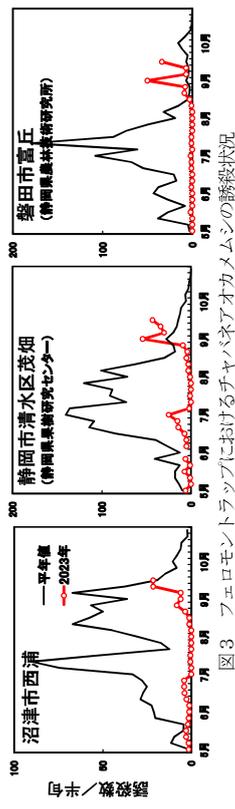


図3 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

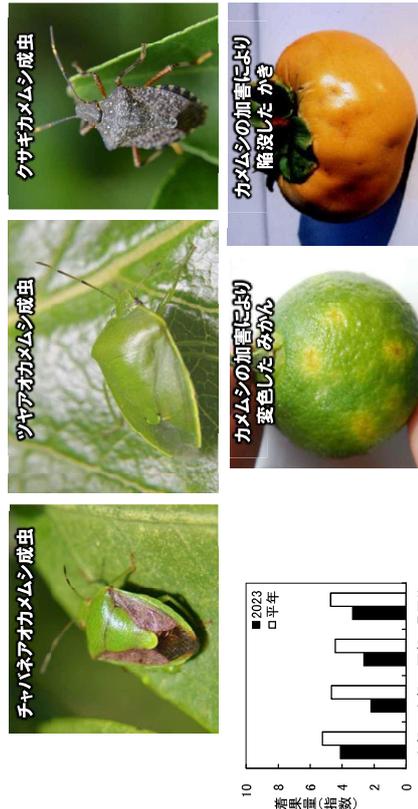


図4 ヒノキ・スギ球果の着果量

図5 果樹カメムシ類とその被害果

令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和5年6月23日  
静岡県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 和名：クロテンコナカイガラムシ  
学名： *Phenacoccus solenopsis* Tinsley
- 2 発生作物 トマト、きゅうり、オクラ、ズッキーニ
- 3 発生経過  
(1) 令和5年5月中旬、静岡県西部地域の施設栽培のトマト及び中部地域の同一施設で栽培されているきゅうり、オクラ、ズッキーニにおいて、コナカイガラムシ類が各作物の株に寄生、増殖していることが確認された(写真1、2-abc)。  
(2) トマトで採集された個体を、農林水産省名古屋植物防疫所清水支所に同定依頼した結果、クロテンコナカイガラムシ(*Phenacoccus solenopsis* Tinsley)と同定された。  
また、オクラで採集された個体についても同所に同定依頼した結果、クロテンコナカイガラムシと同定された。

4 特徴

- (1) 分布 本種は中南米原産で、東南アジアやアフリカをはじめ世界各地に分布域を拡大している。国内では、平成21年に沖縄県で初めて発生が確認された後、愛知県や岐阜県など西日本の18府県で発生が確認されている。
  - (2) 加害植物 広食性であり、64科200種以上の植物に寄生することが知られている。国内では、トマト、ナス、ピーマン等のナス科植物のほか、きゅうり、ほうれんそう、きく等でも被害が報告されている。
  - (3) 形態及び生態 雌成虫は、楕円形で体長約3～5mm。背面に白色のロウ物質を分泌し、体色は白く見える。ロウ物質の一部が薄くなるため、2齢幼虫以降では背面の前方と後方にそれぞれ1対の黒斑があるように見える(写真3)。雄成虫は1対の翅をもつ。雌成虫は平均350個程度産卵し、交尾後に産卵する有性生殖と、交尾せず産卵する無性生殖の両方が知られる。  
幼虫は、1齢幼虫期には歩いて分散する。雌は3齢幼虫を経て成虫となるが、雄は2齢幼虫を経て蛹となり、羽化して成虫となる。年間に数世代を繰り返す。
  - (4) 被害 植物の茎、葉、花芽及び果実に寄生し、吸汁による排液物として甘露を分泌するため、葉や果実に対する症状を引き起こす。吸汁により寄主植物を衰弱させるため、葉の萎縮や多発すると生育不良を引き起こす。
- 5 防除対策  
(1) 現在、トマト、きゅうり、オクラ、ズッキーニにおいて本種に対する登録農薬はない。  
(2) ほ場内をよく観察して早期発見に努め、発生を確認した場合は、拡大を防ぐため寄生部位をすみやかに除去する。除去後は、ほ場外に持ち出し土中に埋めるか、ビニール袋に密閉して処分するなど適切に処理する。  
(3) 雑草に寄生して生息可能であるため、施設内外の除草を徹底する。

【参考資料】



写真1 トマトの茎に寄生した成幼虫



写真2-a きゅうり葉に寄生した成幼虫と葉の萎縮症状(左)及び果実へ寄生する成虫(右)



写真2-b オクラの茎に寄生した成虫



写真2-c ズッキーニの葉に寄生した成幼虫

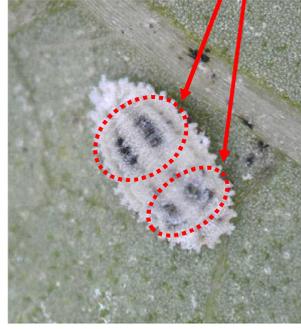


写真3 雌成虫

背面の前方と後方に各1対の明瞭な黒斑が見られる

問い合わせ先： 静岡県病害虫防除所 TEL. 0538-36-1543

## 令和5年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和5年6月23日  
静岡県病害虫防除所長

1 病害虫名 和名：ナスコナカイガラムシ  
学名： *Phenacoccus solani* Ferris

2 発生作物 トマト

### 3 発生経過

- (1) 令和5年5月中旬、静岡県西部地域の施設栽培のトマトにおいて、コナカイガラムシ類が株に寄生していることが確認された(写真1)。
- (2) 採集された個体を、農林水産省名古屋植物防疫所清水支所に同定依頼した結果、ナスコナカイガラムシ (*Phenacoccus solani* Ferris) と同定された。

### 4 特徴

#### (1) 分布

本種は北米、中南米に広く分布するほか、寄主植物と共に移入、定着したものがハワイ、ミクロネシア、南アフリカ等で発見されている。国内では、平成15年に高知県で初めて報告された後、長崎県、愛知県など全国の17府県で発生が確認されている。

#### (2) 加害植物

広食性で、寄生植物は雑草を含むキク科、ナス科、アブラナ科等30科に及ぶとされ、野菜類、花き類、観葉植物、果樹類など広範囲の植物を加害する。国内では施設栽培のピーマン、とうがらし類(甘長とうがらし、ししとう)、なす、きゅうり、すいげんじな、きく、パセジーで発生が確認されている。

#### (3) 形態及び生態

雌成虫は、長楕円形で体長3～5mm。体色は灰色で、体表は白色粉状の分泌物で覆われる。体周縁のロウ物質の突起は18対あるが、極めて短く目立たない。

雌のみによる単為生殖を行い、雄は知られていない。卵胎生のため、卵のうを形成せず直接産卵する。産卵数は約200とされ、3齢幼虫を経て成虫となり、年間に数世代を繰り返す。

#### (4) 被害

主に葉、茎に寄生し、多発すると果実にも寄生がみられる。成・幼虫の吸汁による生育阻害や、排泄物として甘露を分泌するため、葉や果実に対する症状を引き起こす。

### 5 防除対策

- (1) 現在、トマトにおいて本種に対する登録農薬はない。
- (2) ほ場の一部から発生することが多いため、ほ場内をよく観察して早期発見に努め、発生を確認した場合は、拡大を防ぐため寄生部位をすみやかに除去する。除去後は、ほ場外に持ち出し土中に埋めるか、ビニール袋に密閉して処分するなど適切に処理する。
- (3) 観葉植物や雑草にも寄生するため、施設内への観葉植物等の持ち込みを控え、施設内外の除草を徹底する。

### 【参考資料】

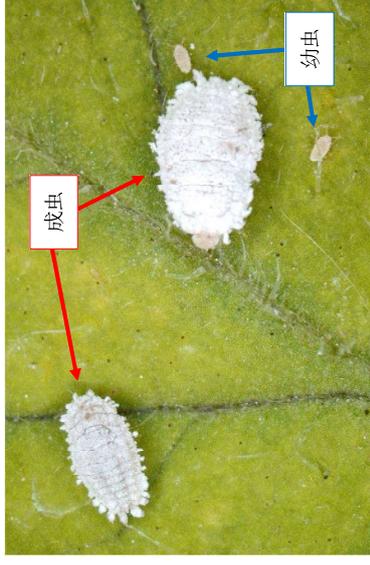


写真1 ナスコナカイガラムシの成幼虫

問い合わせ先： 静岡県病害虫防除所 TEL. 0538-36-1543

## 令和5年度病害虫発生予察特殊報第3号

令和5年10月5日  
静岡県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 和名：モモヒメヨコバイ  
学名： *Singapora shinshana* (Matsumura)
- 2 対象作物 ハナモモ、モモ、ウメ等
- 3 発生経過
  - (1) 令和5年9月、静岡県西部地域の複数のハナモモ生産園地において、葉の白化症状が認められ(図1)、被害葉には多数のヨコバイ類が寄生していた(図2)。
  - (2) ハナモモ被害葉に寄生しているヨコバイ類の成虫及び幼虫を採集し、静岡県農林技術研究所で確認したところ、県内では未確認であったモモヒメヨコバイであることが疑われた。
  - (3) これらヨコバイ類の同定を農林水産省名古屋植物防疫所清水支所に依頼した結果、モモヒメヨコバイ(図3)であることが判明した。

## 4 特徴

- (1) 分布
 

海外においては、中国、台湾、韓国及び北朝鮮での分布が確認されている。国内では、沖縄県での分布が確認されていたが、令和元年に和歌山県で確認されて以降、愛知県、神奈川県等の近隣県を含めた計22都府県で発生が確認されている。
- (2) 寄主植物
 

国内では、ハナモモ、モモ、スモモ、ウメ、ハナウメ、アンズ、オウトウ等のバラ科植物を加害することが報告されている。また、海外ではナシ、リンゴ等のバラ科植物でも被害の報告がある。
- (3) 形態
 

成虫の体長は3.0～3.5mm、体色は黄緑色で複眼は黒く、頭頂部に特徴的な一つの黒点がある(図3)。若齢幼虫の体色は薄い黄色で、終齢幼虫になるにつれて成虫と同じ黄緑色になる(図4)。
- (4) 被害
 

成虫及び幼虫が葉を吸汁し、加害部の葉表が小斑点状に白く脱色する。葉全体が吸汁されると白化症状となり(図1)、激しい加害を受けると早期落葉を引き起こす(図5)。被害葉の裏には、幼虫の脱皮殻が付着している場合がある(図6)。国内における本種の発生報告によると、成虫で越冬し、8月以降に被害が多発するケースが多い。

## 5 防除対策

- (1) 現在、ハナモモにおいて本種に登録のある農薬はない。ウメまたは小粒核果類(ウメ、スモモ、アンズ)では、本種に登録のある薬剤を使用して防除する。
- (2) 本種の発生及び被害の早期発見に努め、確認された場合は速やかに寄生葉ごと除去し、袋への密封や埋設する等、適切に処分する。



図1 ハナモモにおける葉の白化症状

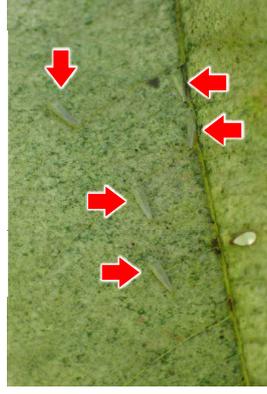


図2 被害葉に寄生するヨコバイ類(矢印：ヨコバイ類の成虫)



図3 モモヒメヨコバイ成虫(矢印：頭頂部の黒点)



図4 モモヒメヨコバイ幼虫



図5 激しい加害によるハナモモの早期落葉



図6 被害葉の裏に付着する脱皮殻

問合せ先： 静岡県病害虫防除所 TEL. 0538-36-1543